

- ・ 知的の仲間はヘルパーと一緒にいることから1日の生活を考えたり流れをつくったりするのに、具体的に何かをしていないと（手足を動かすとか）介護としてみとめられないのは非常に厳しい。一緒に考えたり雰囲気をつくったり生活の流れをつくったりする大事な支援がある。

（東京都在住、知的障害、28歳）

- ・ この調査のことはあらかじめ知っていたし市の説明会にも行ったにもかかわらず、突然の訪問調査（このときは途中で「やめてください」と断った）で体調を崩し、反復性の鬱が再燃しました。丸1月独居（生活保護が個人でなく世帯認定なので友だちと同居して助け合うという未来が描けない）で悪戦苦闘するうち胃が壊れ、4年ぶりに再入院しました。…略…6月に家事援助時間を増やすための家庭訪問だったのが、調査に来た顔みしりの精神保健相談員が、ノルマに焦ったのか、突然アポなしで調査を始めたのです。

（北海道在住、精神障害、44歳）

- ・ 障害程度区分は本人に出されるものであるのに、家族がいるから生活に困らないと思われている感がある。家族に何かあれば生活ができない判定が出ている。（兵庫県在住、全身性障害、53歳）

- ・ 今は、親と同居しているが、27才なので、自立を希望している。地域での自立生活が、サービスの支給量が制限され、あやうくなっている。施設からの地域生活への移行という、前の支援費のできた時の理念は、どうなったのか。親の健康状態が悪くなっている。このままでは、共だおれになる。グループホームなり、アパートでの自立生活を実現させたい。

（東京在住、全身性障害、知的障害重複、27歳）

- ・ 精神障害を持つ夫と脊髄の病気の為に専門医の治療が必要な私が借家で生活するにはとても今の支援では生活できない事を伝えても、支援を受けるには経済の負担が重くのしかかり負担を減らす為に無理をして共倒れ…。認定も見えない精神障害(区分2)で家事援助が月10時間まで&自立支援の負担と広島県の重度医療自己負担訪問調査があってもどれほど大変なのか理解されず、こんな制度ができた事に苛立ちを感じています。一人一人障害も自立の状態も経済力も介護も異なる事をもっと考慮した自立支援法になって欲しいです。（広島県在住、全身性障害、内部障害の重複、41歳）

- ・ わたしののぞみはつうじていません。ひとりでちょうさをうけるのは、きんちょうしてしまっていたいことが、いえませんでした。つたえたいのに、つたわらず、けっきょく、わからないけつかになってしまいました。ほかに、ぜんぶ、ちいさなことまでせつめいしてくれないとわかりません。ちゅうしょうてきなことばはわからないので、わかるように、ゆっくりせつめいしてほしいとおもいます。あと、しよるいだけでは、わからないので、わかるように、わかるまでせつめいしてほしいです。

（岐阜県在住、精神障害、発達障害、全身性障害24歳）

【アンケート調査協力者】	【アンケート担当事務局】
圓山 里子 さん	佐藤 聡
岡部 耕典 さん	山本 広二郎
木口 恵美子さん	尾上 浩二
	南館 こずえ
	山本 創